

# 国指定重要文化財 旧門司三井倶楽部



華麗かつ重厚なデザインが施されたかつての迎賓館

## 【建物概要】

この建物は、大正10年に三井物産の迎賓館として山手の谷町に建設されました。大正11年にアインシュタイン博士夫妻が五日間宿泊された由緒ある建物です。第二次世界大戦後は、財閥解体に伴い旧国鉄に買収、国鉄職員の厚生施設として利用されました。昭和62年には国鉄の民営化により国鉄清算事業団に移管。建物の老朽化のため、解体撤去する話が持ち上がりましたが、平成2年に北九州市に無償譲渡され保存されることとなりました。同年3月には国の重要文化財に指定されています。市は、昭和63年よりスタートした「門司港レトロめぐり海峡めぐり事業」の一環として建物を門司港駅前に移築しました。こうして旧門司三井倶楽部は観光施設として生まれ変わり、今日に至ります。

## <沿革>

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 大正10年7月 | 三井物産の社交クラブとして門司区谷町に建築 |
| 昭和24年3月 | 旧国鉄に買収、「門鉄会館」と改称      |
| 昭和62年4月 | 国鉄の民営化により国鉄清算事業団へ移管   |
| 平成2年2月  | 北九州市に無償譲渡             |
| 平成2年3月  | 国の重要文化財に指定            |
| 平成2年7月  | 移築工事着手                |
| 平成7年1月  | 5月に及ぶ全工事完了。           |
| 平成7年3月  | 観光施設としてオープン           |

## <構造>

|           |       |          |
|-----------|-------|----------|
| 本館…木造2階建  | スレート葺 | 延床面積901㎡ |
| 付属屋…木造平屋建 | 浅瓦葺   | 延床面積182㎡ |
| 倉庫…木造平屋建  | 浅瓦葺   | 延床面積46㎡  |

## <設計>

設計者 松田昌平  
明治22年2月福岡県直方市生まれ。昭和6年松田建築事務所を開設。以後九州の建築家の発展に尽力。旧門司三井倶楽部の向かい側にある旧J R本社ビルは昌平の弟・松田軍平が設計した。



## 【建築様式】

外壁には、木の柱や梁などを骨組みとして外に見せるハーフティンバー様式が用いられており、縦、横を強調する木部のダークブラウンと白の窓枠とのコントラストが複雑なデザインと共に外観を特徴づけています。また、正面に並べられた大小五つの切妻屋根が堂々とした印象を与えています。建物の構造は、洋風の本館と和風の付属屋からなり、付属屋は当時管理人の住宅として使用されていました。現在はレストランの離れとして使用されています。当初は洋風の本館のみを移築する予定でしたが、洋和館セットだからこそ文化財として価値がある、ということで付属屋も一緒に移築されることになりました。

この建物の内装には当時の流行の最先端をいくアールデコ調のデザインが取り入れられています。アールデコ調とは、1910年代半ばから1930年代にかけてフランスを中心に流行した美術工芸の様式です。その幾何学模様を主体としたモダンなデザインが本館のマントルピース・ドア枠・窓枠・階段の親柱などに施されていますので、ぜひ細部までご覧ください。また、マントルピース(暖炉の上部や側面を囲む飾り枠)は部屋ごとにデザインが異なっておりますので見比べてみてください。

## 【職人の卓越した技術】

この建物の外壁は、大正時代に流行した「洗出し仕上げ」と「モルタル掃き付け仕上げ」という工法で仕上げられています。

本館1階部分に用いられている「洗出し仕上げ」は、壁に瓦を貼ってモルタルを塗った下地に、石灰セメントなどに御影石の粉末を混ぜて練ったものを塗り、完全に硬化する前に水をスプレーする工法です。

こうすることで、美しい御影石が表面に表れるのです。本館2階とハーフティンバー部分に用いられている「モルタル掃き付け仕上げ」は、「洗出し壁」と同様の下地を作り、その上からモルタルを小さな箒のような道具で掃き付けて仕上げます。別名「ドイツ壁」といい、その荒々しい表面が重厚感を感じさせます。「モルタル掃き付け仕上げ」は比較的短期間で廃れてしまったので、現在の日本では殆ど見ることはできません。



イベントホールの天井蛇腹

旧門司三井倶楽部は重要文化財のため、移築工事は大変慎重に行われ、各分野のエキスパートが集結しました。入念な学術調査をしながら解体し、既存の部材をできるかぎり再使用しています。特にこの建物の天井飾りは大変手が込んだものが多く、今ではこのような造形ができる左官職人は少ないと言われています。解体することにより左官仕事が撤去されてしまうため、少しでも当初のものを残そうと、1階ホールの漆喰を盛り付けてできた中心飾りは周囲をくりぬいて外し、再び利用しています。さらに大客室(イベントホール)の天井蛇腹(軒や壁に帯状に突出した装飾)は、丁寧に込み入った仕事をしてきたため、八分割して解体し、再び組み立てています。



アールデコ調のマントルピース

## 三井物産の創始者は誰？

三井物産の創始者…益田 孝(ますだ たかし)  
益田孝は明治9年に三井物産を設立しました。彼は、実業家になる前に当時としては珍しい経験をしています。幕臣だった頃の文久3年に遣欧使節団に加わり、フランスを訪れているのです。途中で立ち寄ったエジプトではスフィンクスも見学しています。日本と海外のあまりの違いに大変な衝撃を受けたようですが、このときの経験が後の活躍に生かされています。ちなみに益田孝が中心となり明治9年に日本発の経済新聞「中外物価新報」を創刊していますが、これが現在の「日本経済新聞」です。

# 🌀 アイシュタインメモリアルルーム 🌀

大正11(1922)年、アイシュタイン博士夫妻は改造社(日本の出版社)の招きで日本を訪れました。11月17日から12月29日までの43日間に及ぶ講演旅行で日本を縦断し、この建物には五日間と日本で最も長く滞在されました。旧門司三井倶楽部では、アイシュタイン博士夫妻が宿泊された3つの部屋、リビングルーム・ベッドルーム・バスルームを見学することができます。

## アイシュタイン博士・門司港での日程

- 12月23日 門司港に到着。門司三井倶楽部に宿泊。
- 12月24日 福岡市大博劇場にて最終公演。同じく福岡市にあった「栄屋旅館」に宿泊
- 12月25日 九州帝国大学訪問。門司に戻り、YMCA門司ランチ(門司基督教青年会館)でクリスマス会に出席。子供たちに「アヴェ・マリア」をヴァイオリンで演奏。
- 12月26日 門司の山と海の景色を楽しむ
- 12月27日 和布刈や壇ノ浦などの関門海峡を観光
- 12月28日 門司商工会議所の招待会に出席。
- 12月29日 棧橋に向かう途中で正月用の餅つき風景に遭遇し、さっそく参加。赤いハチマキを自ら締めて餅をつく。日本郵船「榛丸」に乗船して帰路へ。

## 当時は珍しかった『ベッド』

博士は24日に福岡市の栄屋旅館に宿泊されていますが、日本旅館のため、ベッドがありません。そのため布団を8枚重ねて代用したそうです！当時はまだ国産のベッドメーカーもできていなかったため、旧門司三井倶楽部のようにベッドが置いてあったのは、本当に限られた場所だけだったんですね。



# 🌀 林芙美子記念室 🌀

門司に生まれた(諸説あり)林芙美子の生涯と作品を、資料とパネルでご紹介しています。(自筆原稿をはじめ、パリの日記や漢口従軍手帳、書簡、絵画、書、愛用の品々などおよそ150点を展示)

庶民に寄り添い、庶民的作家として昭和の激動期を駆け抜け、たくましく生きた芙美子の生涯をご覧ください。



## 林芙美子文学賞

珠玉の短編小説を遺した林芙美子にちなみ、北九州市は短編小説を対象とした「林芙美子文学賞」を創設し、全国から作品を募集しました。栄えある第一回(2014年度)の大賞受賞作品に選ばれたのは、井岡道子さんの作品「次ぎの人」です。この文学賞がきっかけとなり、どんな文学の才能が羽ばたくことになるのでしょうか。これからも林芙美子文学賞にご注目ください。

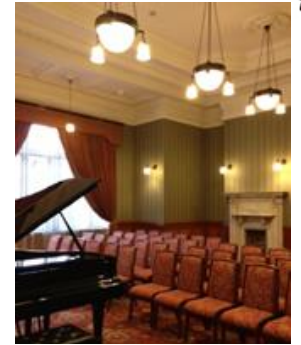
《2015年2月28日リニューアル》  
林芙美子文学賞創設を記念して、スペースを約2倍に拡大、展示内容もより充実したものとなりました。

## <館内見所MAP>



### 1 F … 無料

- ① 帆船が描かれたステンドグラス
- ② 天井の中心飾りとアールデコ調のマントルピース
- ③ 移築の際に八分割して再び組み立てた天井蛇腹



1F イベントホール  
イベントホールにあるピアノは、世界ピアノメーカー御三家の一つに数えられるスタンウェイのピアノです。平成4年に三井物産(株)によって寄贈されました。※イベント内容により、見学できない場合もございます。

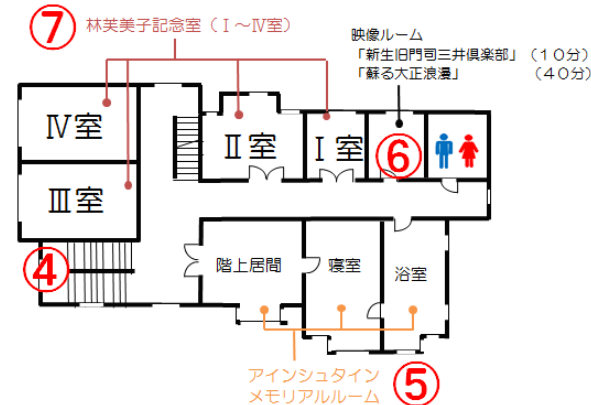
( ) は当時の部屋の名称

門司港コンシェルジュ(観光情報コーナー)  
見所・グルメ・イベント情報などをご案内します。  
お気軽に声をおかけください♪

### 2 F … 有料

(入場料金: 大人150円、小人70円)

- ④ アールデコ調の階段の親柱
- ⑤ アイシュタインメモリアルルーム
- ⑥ 映像ルーム…移築の様子を映像で見ることができます。
- ⑦ 林芙美子記念室(I~IV室)



## <アクセス>



## 《重要文化財》 旧門司三井倶楽部

〒801-0852  
福岡県北九州市門司区港町7-1  
TEL. 093-321-4151

JR 門司港駅より徒歩約2分  
門司 IC より車で約7分  
※専用の駐車場はございません。  
周辺の有料駐車場をご利用ください。